

車より話

N.40 平成 25 年 1 月 23 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

いよいよ年金受給は 61 歳から

昭和 16 年 4 月 1 日 (女性は昭和 21 年 4 月 1 日) 以前生まれの男性には、60 歳から満額 (報酬比例部分と定額部分) が支給されていましたが、平成 12 年の年金大改正により、昭和 36 年 4 月 2 日 (女性は昭和 41 年 4 月 2 日) 生まれの人には、老齢厚生年金として 65 歳から支給されることとなりました。

しかし、激変緩和措置として、その間は生年月日に応じて段階的に満額支給を遅らせることとし、現在実行されています。

その激変緩和措置の最終ステップとして、いよいよ本年 4 月以降、昭和 28 年 4 月 2 日 (女性は昭和 33 年 4 月 2 日) 以降生まれの男性から報酬比例部分のみの年金は 61 歳からの支給となります。厳しい現実となってきます。

その後段階的に支給されることとなります。

ご参考：生年月日による段階的支給

- ・ 昭和 28 年 4 月 2 日～昭和 30 年 4 月 1 日 (女性は昭和 33 年 4 月 2 日～昭和 35 年 4 月 1 日)・・・61 歳支給
- ・ 昭和 30 年 4 月 2 日～昭和 32 年 4 月 1 日 (女性は昭和 35 年 4 月 2 日～昭和 37 年 4 月 1 日)・・・62 歳支給
- ・ 昭和 32 年 4 月 2 日～昭和 34 年 4 月 1 日 (女性は昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 39 年 4 月 1 日)・・・63 歳支給
- ・ 昭和 34 年 4 月 2 日～昭和 36 年 4 月 1 日 (女性は昭和 39 年 4 月 2 日～昭和 41 年 4 月 1 日)・・・64 歳支給
- ・ 昭和 36 年 4 月 2 日～ (女性は昭和 41 年 4 月 2 日～)・・・65 歳支給

その対応策としては、雇用を継続するか、又は 60 歳から繰り上げ支給を申請することになります。しかし 60 歳から繰り上げ支給を申請することにすれば、当然ながら支給額は 1 年間で 6% 減額されます。また一旦減額されたものは変更できず、一生減額支給のままとなります。

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。

江戸あれこれ

さてこれだけ磐石な態勢の徳川家で将軍家と御三家、御三卿の関係はどのようなものだったのでしょうか。大変微妙な関係が続いていたようです。

将軍家は御三家を煙たい存在と思い、御三家は将軍家に臣従を強いられることに不満が強かったようです。このため御三家は尊王思想が強くなったと言われます。御三家筆頭の尾張徳川家は幕末に将軍家を守り通すどころか藩内の佐幕派を処刑し真っ先に新政府に恭順しました。

紀州徳川家も幕府への謀反の噂も強く流れました。水戸徳川家において藩祖頼房は尊王思想が強く、2代光圀も尊王思想を引き継ぎ、以後「大日本史」を編纂したくらいです。

徳川、松平一門の複雑な感情は初期の段階からありました。小説「忠直卿行上記」(菊池寛著)の小説にこのことが顕われているようです。

家康の子供は以下の通りです。(公式記録に残る者だけ)

長男・信康・・・織田信長の命により切腹

2男・秀康・・・豊臣秀吉の養子となり、結城家を相続。豊臣滅亡後、徳川姓に戻るが秀忠將軍誕生後死亡。長男忠直が越前75万石を相続するが、徳川姓は名乗ることができず、松平姓。

3男・秀忠・・・第2代將軍(秀忠の娘が忠直の正室)。3代將軍家光...7代將軍家継で秀忠直系の血は途絶える。ただし直系ではないが、会津藩主保科正之に続く。

4男・忠吉・・・尾張藩主となるが若死

5男・信吉・・・武田姓となるが若死

6男・忠輝・・・家康に嫌われた。伊達政宗の娘五郎八(いろは)姫を娶る。越後高田65万石の大名になったが、秀忠から謀反の嫌疑により改易させられる。

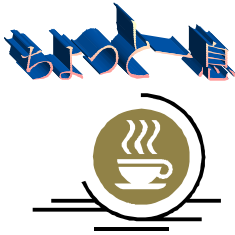
7男・8男・・・幼少にて死去

9男・義直・・・尾張徳川家の初代(御三家筆頭)

10男・頼宣・・・紀州徳川家の初代(御三家)

11男・頼房・・・水戸徳川家の初代(御三家)

忠直にしてみれば、実質長男とも言える父秀康が將軍になれず、さらにその世子である自分が徳川姓を名乗れないだけでなく、父秀康の遙か末弟達の御三家より家格も官位も低く扱われることに耐えられなくてご乱行に及んだのではと想像されています。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

欲しいのは 残った人より 去った人

三代目

いまにみる おれの味方は 宝くじ

夢追人

濡れ落ち葉 仲間と思えば 踏めもせず

定年ていねん近ちか至し

起きぬけの 素顔に愛犬 吠えまくり

楓

愛妻の 母看る背中に 手を合わせ

夜討ち朝駆け亭主

第十七回第一生命サラリーマン川柳コンクールより